

## 現場および バックオフィス部門に おけるデジタル化の推進

将来的な企業風土改革の土台づくりを目指し、業務の効率化などを進めるDXを推進した。現在使用しているソフトウェアを活用しながら運用を見直すなど、社員が無理なくDXに取り組めるように工夫した。

▼  
取り組み内容

**Step 1**  
現状把握と課題整理

高平社長をはじめ、総務部や各現場の社員にヒアリングし、現状を把握し課題を整理した。

**Step 2**  
ロードマップ①策定

Step1で設定した課題解決に向けて、11月末完了を見据えたロードマップを策定した。

**Step 3**  
課題解決

ロードマップを基に承認回覧の電子化・原価管理の整理・資料格納場所の統一・土木事業の遠隔管理を推進した。

**Step 4**  
ロードマップ②策定

本プログラム終了後、12月以降に取り組みべきDX推進策について取りまとめ、準備を進めた。

受入企業

### 新栄建設 株式会社

代表取締役社長 高平 公輔 さん

1950年設立。立山の砂防工事をはじめ、道路やトンネル、橋梁などを手掛ける土木事業と、公共建築物や商業施設、工場などを手掛ける建築事業を2本柱とする。2023年7月に立山町内を襲った豪雨災害など、災害発生時の復旧・復興事業にも携わっている。建築事業では近年の公共工事の変化や将来予測から、民間への営業強化に注力している。

協力研究員

日田 英一 さん

「部門間を横断できるクロスオーバー人材」の醸成を目指す伴走者

上智大学比較文化学部にて国際経営を専攻。在学時、インターンシップへの参加をきっかけに学生起業し取締役就任した。その後、情報通信会社で法人営業に17年、ITコンサルティングに10年携わる。人に寄り添い、「IT弱者」を置き去りにしないコンサルティングや組織マネジメントを強みとしている。

富山“Re-Design”ラボ 事例

CASE:

建設業の  
生産性向上へ  
DX化推進

取り組みの成果  
・  
今後の取り組み

- ・現場やバックオフィス部門におけるデジタル化を推進するため、ロードマップを作成。承認回覧を電子化したほか、原価管理システムの運用を見直した。また、資料の格納場所を自社サーバーからクラウドサーバーに変更。格納時のルールも統一し、検索性を向上させた。
- ・ウェブカメラを活用した土木事業の遠隔管理の実現に向け、準備を進めた。
- ・今後はDXを推進するための人員確保及び人材教育を継続的に進める。本社と現場間の業務を繋ぐ「デジタルコンシェルジュ」による業務効率化を図る。

🐝 受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・当社では業務の効率化や企業風土改革に向け、DXの推進を課題と考えていました。自社にマッチしたDXをどのように進めるべきか、そんな悩みを青年会議所時代の先輩で建設コンサルタント会社の社長に話したところ、富山“Re-Design”ラボを紹介してもらいました。

評価（成果・社内変化など）

- ・日田さんには長期的、継続的にDXに取り組むためのロードマップ作りをお願いしました。おかげで、お仕着せではない当社にマッチしたDXに取りかかることができました。
- ・日田さんの指導により、総務部の社員のITリテラシーが向上したほか、報告・資料作成やプレゼン能力など、社員のビジネススキルも向上しました。社員の意識が変わり、部門間のコミュニケーションもより円滑になりました。期待以上の成果を挙げてくれたと思います。
- ・富山“Re-Design”ラボは、企業にとってすごく助かる取り組みです。会社を変えるきっかけにもなります。さらにブラッシュアップして、もっと広がっていくことを期待しています。

今後の関わり方

- ・当社のDXは緒に就いたばかりです。今後も適切なソフトウェアの選択やその導入の順序などについて、戦略的な決定が必要となりますので、日田さんには引き続き、力を借りたいと思っています。

👤 協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・IT業界で長く働いてきたのですが、アクセルを一旦緩め、3年ほど期間を設けて、これからのキャリアを考えていこうとしていた矢先、偶然にも富山“Re-Design”ラボについてSNS広告で知り、何か学びがあるのではと思い、応募しました。

評価（取り組み・生活）

- ・新たなソフトウェアを導入したり、先進的な取り組みを押しつければ、新栄建設の皆さんがパンクしてしまうと思いましたので、まずは社内業務の全体像が見える化し、現在使っているツールの運用を見直すなど、なるべくストレスを感じずに取り組むことのできる方法を考え、課題の解決につなげました。
- ・自然が豊かで食べ物がおいしく、人との出会いも刺激的で、富山での暮らしは最高でした。富山大学の先生からは人口減少社会における関係人口の創出・拡大などについて講義していただきました。その知識が実際の地域でどのように解釈され、まちづくりに活かされているのかを現地に訪れ、自分の目で確認できたことも有意義でした。

今後の展望

- ・新栄建設のDXをサポートすると同時に、同社をモデルに県内の建設会社の総務部門のレベルアップを後押しするような組織の発足を県に提言したいと考えています。また、以前から興味があった農村RMOのモデルケースづくりにもチャレンジしたいと思っています。